

令和7年度 長野県 英語教育改善プラン

目標

CAN-DOリストを活用し、領域ごとの達成状況を丁寧に把握することで、指導と評価の一体化を進める。言語活動の充実を通じて、児童が英語学習への興味・関心をさらに高めることができる授業を目指す。

- 言語活動
 指導と評価の一体化
 教師の英語力・指導力
 校種間連携
 ALTの参画
 ICTの活用
 AIの活用
 その他
- (パフォーマンステスト含む)
 (専科教員含む)
 (AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

- CAN-DOリストの設定状況について、向上が見られる。
(参考：R5：76.1%)
- 児童の英語による言語活動(授業の50%以上)の割合の増加。
(参考：R5：93.4%)

未だ改善が必要な点

- R5・6全国学力・学習状況調査の質問紙調査の結果((61)英語の勉強は好きですか等)から、児童の英語学習に対する興味・関心について課題が見られる。
(61)R5:68.8%⇒R6:68.1%
- CAN-DOリスト活用状況について、改善傾向にあるが改善の余地がある。
【公表】(参考：R5:59.3%)
【把握】(参考：R5:39.9%)

2. 要因分析

- 教育課程研究協議会(悉皆研修)を毎年実施している中で、学年ごとの到達目標を設定することの重要性について扱ったことにより、設定状況の向上が見られたと考えられる。
- 研修会において、改訂された教科書を活用し言語活動の具体について検討したことにより、言語活動実施状況が継続してよい状況であると考えられる。

- 児童の英語学習に対する興味・関心について、言語活動の目的等が明確でないために、児童が「できた」「伝わった」と感じる成功体験につながりにくくなっていることが考えられる。
- CAN-DOリストの活用状況の課題について、資質・能力の育成を目指した指導と評価の一体化の学校での捉え方に課題があると考えられる。

3. 目標を達成するための施策・事業

- CAN-DOリスト活用の促進
 - 英語専科教員による校内研修の充実と専門性向上のための研修をオンラインで実施。専科教員がCAN-DOリスト活用を校内で普及できるよう、研修を工夫する。
 - 小学校「外国語活動・外国語」出前講座を実施し、各学校のニーズや課題に合わせ、CAN-DOリストの見直しについて対応する。
- 「英語が好き！もっと挑戦してみたい！」を応援
 - 小・中学生対象のEnglish Campを年1回開催し、ゲームやアクティビティ、ディベートやディスカッション等を実施。
 - English Campの実施に合わせ、言語活動の充実・高度化に向けた教員対象の研修会を実施。
 - 「学びの充実あと押し事業」の一環で実践校(小学校3校、義務教育学校1校)において、無償アプリまたは無償トライアル版のAI英会話アプリの活用を進める。個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けた取組を支援。成果については、小中高連携を意図したフォーラム等で発表、共有する。
- 指導力等の向上
 - 小学校教員の新規採用において、加点制度を導入。(実用英語技能検定準1級又は相当(TOEFL iBT80点以上、TOEIC 730点以上)の資格取得者)。

【参考URL】

<https://www.pref.nagano.lg.jp/kyoiku/kyogaku/kyoshokuin/shiryo/gaikokugokyoiku.html#eigoryoku>

令和7年度 長野県 英語教育改善プラン

「目指す姿に到達するための逆算的な単元構想による授業」「学習過程を意識した授業づくり」を基に、資質・能力の育成を目指す。

○CEFRA1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合 (R6: 54.7% ⇒ R7: 55.0%)

目標

言語活動 指導と評価の一体化 教師の英語力・指導力 校種間連携 ALTの参画 ICTの活用 AIの活用 その他
(パフォーマンステスト含む) (AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

- CEFR A1レベル相当以上の英語力を有すると思われる生徒の割合について、向上が見られる。(R5:43.5%⇒R6:54.7%)
- 学習者用デジタル教科書等について授業における活用状況の向上が見られる。(R5:84.2%⇒R6:89.6%)

未だ改善が必要な点

- R6全国学力・学習状況調査の質問紙調査の結果から、言語活動が充実している様子があるが、取組が十分ではないことが伺える。
 - ・即興で自分の考えや気持ちを伝え合う活動 (R5:60.8%⇒R6:67.0%)
 - ・まとまった内容を英語で発表する活動 (R5:73.4%⇒R6:79.4%)
- ※数値については肯定的な回答の合計

2. 要因分析

- 学習指導要領の目標を基にCAN-DOリストを設定し、生徒の到達目標の達成状況を把握するよう指導主事が助言を行い、各学校で丁寧に状況を見取することを徹底したことが要因と考えられる。
 - 各研修において利活用の案内が行われ、活用の機会が増えたことが要因と考えられる。
- 言語活動を行っている割合は高いが、指導方法に関して、即興的なやり取りや発表を促す指導方法についての理解が十分ではないことが要因と考えられる。また、評価については、正確さを重視するあまり、目的を達成するための適切な表現を促す活動が十分に行われていないこと等が影響していると考えられる。

3. 目標を達成するための施策・事業

- 学習指導の改善・充実
 - ・授業改善実践校による、「目指す姿に到達するための逆算的な単元構想による授業」「学習過程を意識した授業づくり」の実践。
 - ・各地区指導主事が各校の取組を伴走。総合教育センターの研修講座において実践発表を行う。(小中高の教員が参加)
- ① 指導と評価の一体化に関する理解の促進
 - ・中学校「外国語」出前講座
 - ・各学校のニーズや課題に合わせ、言語活動の充実やCAN-DOリストを活用した目標達成状況の把握、CAN-DOリストの見直しについての出前講座を実施。
- ② AIの活用の促進
 - ・「学びの充実あと押し事業」の一環で実践校（中学校7校、義務教育学校1校）において、無償アプリまたは無償トライアル版のAI英会話アプリの活用を進める。個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けた取組を支援。ICT機器やAIアプリ等の活用について取り組んでいる学校の実践を広く県内に紹介し、取組の参考にしていただく。成果については、小中高連携を意図したフォーラム等で発表、共有する。

【参考URL】

<https://www.pref.nagano.lg.jp/kyoiku/kyogaku/kyoshokuin/shiryo/gaikokugokyoiku.html#eigoryoku>

令和7年度 長野県 英語教育改善プラン

授業内外におけるALTの参画の推進及びICTの効果的な活用を促進し、生徒の英語によるコミュニケーションの充実を図る授業づくりを支援する。

目標

○CEFRA2/B1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合
(R6 : A2以上 48.3%、B1以上 20.8% ⇒ R7 : A2以上 52%、B1以上 24%)

言語活動 指導と評価の一体化 教師の英語力・指導力 校種間連携 ALTの参画 ICTの活用 AIの活用 その他
(パフォーマンステスト含む) (AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

① 英語による言語活動（授業の50%以上）を行っている生徒の割合について、改善傾向を維持。
(R5:66.8%⇒R6:65.9%)

未だ改善が必要な点

① 生徒の英語力（CEFR A2レベル相当以上）は、引き続き改善の余地がある。
(R5:51.1%⇒R6:48.3%)

② 英語担当教師の英語使用状況（発話の50%以上）について、改善が必要である。
(R5:48.2%⇒R6:43.7%)

③ 授業内外の教育活動へのALTの参画状況について、引き続き改善の余地がある。

2. 要因分析

① 授業研修会を各地区で実施し、生徒の英語力に応じた言語活動の実践例を示したことにより、授業中の言語活動のあり方についての具体の周知が進み、割合が改善傾向を維持していると考えられる。

① 生徒の英語力について、統合的な言語活動への取組及び指導と評価の一体化の具体的内容の周知が十分でないことが要因と考えられる。

②③ 言語活動を中心に据えた指導のあり方について、教員の英語による指示や助言の具体的方法及びALTと協働した活動計画の立案・実践等の周知が十分でなく、授業改善の支援が引き続き必要であると考えられる。

3. 目標を達成するための施策・事業

①①② 各校における授業改善への支援

CAN-DOリストを年間指導計画及び単元構想に適切に反映した指導に資するため、英語指導力アップスキル授業研修会（通年・県内4地区）を実施する。また、参加者が自校での授業改善に研修成果を還元できるよう、研修後も支援を継続する。また、各校が抱える課題に対して、学校訪問及び校内研修の実施等をとおして、個別の学校支援についても充実を図る。生徒の英語力に応じた教師の適切な英語使用についても十分な情報提供及び研修機会の確保に努める。

①②③ ALTの参画及びICTの効果的な活用の推進

授業内での生徒の英語によるコミュニケーションを充実させ、生徒の英語力向上を図るため、全県のALT増員（R6：43名⇒R7：52名）に加え、英語指導力アップスキル授業研修会にて、ALTとの協働による授業公開を地区ごとに実施する。これにより、ALTの教育活動への積極的な参画を奨励する。特に、グローバルに活躍することが期待される層の拡充のため、探究活動へのALTの参画をテーマとする研修会を開催する。また、ICT及び生成AI活用による授業改善を図るため、教育課程研究協議会（9月、県内4地区）及び生成AI活用に係る研修会を実施し、各校の取組事例について情報交換を行う。

(参考URL : <https://nagano-plan3.com/>)

長野県教育委員会

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027		
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	
高等学校	①CEFR A2レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)	52	51.1	54	48.3	52		56		60		
	①CEFR B1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)	25	21.2	25	20.8	24		27		30		
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合(%)	60	66.8	68	65.9	70		72		74		
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合(%)	68	81	83	79.6	85		87		89		
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	100	100	100		100		100		100	
		公表(%)	100	94.8	100		100		100		100	
		達成状況の把握(%)	80	92.7	100		100		100		100	
⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合(%)	90	92.1	92.2	92.3	92.3		92.3		92.3			
⑥英語担当教員の授業における英語使用状況(%)	80	48.2	50	43.7	50		60		70			

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027		
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	
中学校	①CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)	50	43.5	50	54.7	55		57		60		
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合(%)	100	89.4	100		100		100		100		
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合(%)	90	75	90		90		90		90		
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	100	100	100		100		100		100	
		公表(%)	100	65.6	100		100		100		100	
		達成状況の把握(%)	100	82	100		100		100		100	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合(%)	50	45	50	41.1	52		54		56		
⑥英語担当教員の授業における英語使用状況(%)	100	84.5	100		100		100		100			

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027	
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
小学校	「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	75	76.1	80		82		84		86
		公表(%)	75	39.9	75		75		77		80
		達成状況の把握(%)	75	59.3	75		75		77		80